

僕の走ってきた道を「振り返り」 僕の前に道はできる！

<令和5年度 前期終業式 校長講話>

先日新人戦が行われましたが、部活動の顧問をしていた時は、大会等で負けていつまでもくよくよしている子ども達に、「後ろを振り返っていつまでも暗い顔をするな。次だ次、次のことを考えよう。新しい目標に向けて気持ちを切り換えよう。」などと生徒を鼓舞し、自分に言い聞かせることを常としていました。

このように、一般的に「振り返る」ということは、過去の失敗や思い通りにいかなかった結果をあきらめきれないで後悔したり、過去の栄光や良き思い出に浸ることばかりに執着し過ぎたりするなど、どちらかと言えばマイナスのイメージで使われることも多いようです。

しかし、本来、「振り返り」は「反省」とは違います。「反省」は自分の過ちや失敗を思い返して、それで本当によくないところがなかったかどうかを考えてみることにとどまります。

それに対して、本当の「振り返り」とは、これまでの出来事や自分の言動を思い返して整理すること。今後の成長や発

展につなげるために過去を冷静に省みること。さらに、これまでの言動から工夫や改善できることを前向きに探していく作業へと続く、未来思考の大切なプロセスであるべきです。

皆さんの日々の授業や学校行事、部活動などの学校生活すべてにおいても、この「振り返り」がとても重要です。私たち教員の授業づくりにおいても、この「振り返り」の設定が真の学力に向けて大きなポイントとなります。

特に授業では、子どもたちが、「何がわかり、何ができるようになったのか」をまとめるだけでは不十分で、授業終末の「振り返り」こそが、確かな学力の獲得には不可欠なのです。

なぜなら「振り返り」を通して、その時間での自らの学びを自覚できるようになり、その時間の学びをより確かなものにできるからです。

例えば、具体的な授業の終末での「振り返り」の姿としては、次のような内容が挙げられます。

◇みんなで話し合った結果、私は〇〇だということが新たに分かった。

◇ネットで深く調べたら、ぼくが初めに予想したとおりで、自分の考えに確信がもてた。

◇リズムよく助走することを意識したら、強く踏み切れるようになった。

◇〇〇さんの意見を聞いて、別の考え方や見方がたくさんあることに気がついた。

◇比喩の表現を上手にを使って理由を述べる文章を書いたら、自分の考えを納得してもらえた。

◇初めに提示された問題の解き方を参考に、似たような問題も解くことができた。

授業での「振り返り」とは、自らの学びを自覚できるようにすること、言い換えれば、自らの学びを深く落とし込むということです。

授業だけではありません。例えば、友だちとケンカして、親や先生に叱られて「反省」しろと言われて、とにかく悪いことはしたのは事実だからと、その場だけで友だちと形だけの仲直りをしたとしても、言葉だけ謝罪してその場しのぎだけしたとしても、また同じ失敗を繰り返すはずです。

しっかり「振り返り」をして、自分はこれからどうあるべきかと、自分自身が心から納得できる形で、ストーンと自分の心に落とし込まないと、同じ轍を踏むだけで何も変わらないのです。

本日、皆さんには一人一人通知表が配られ、授業をはじめとする学校生活のこれまでの皆さんの取組状況が示されました。これも、「振り返り」のための大きな資料の一つだと考えています。評価評定などの数字だけに一喜一憂するにとどまらない、冷静で正確な自己分析が必要です。

詩人高村光太郎は、あの有名な詩「道程」の冒頭で、『僕の前に道はない 僕の後ろに道はできる』とうたっています。これは、「自らの進む道は自分の力で切り拓いていくのだ。

その歩みが「人生」という一本の道となる。」という意味が込められています。

皆さんの学校生活は、さながら『僕の進んできた道を振り返り 僕の前に道はできる』ではないでしょうか。

本日、前期終業日を迎えました。マラソンに例えるならば折り返し地点です。さて、前半の“走り”はいかがだったでしょうか。令和5年度前半の「振り返り」をしっかりと行い、後半戦への、力強く美しく正しい“走り”につなげてほしいものと願っています。